

2026.7.8

～通知表の見方について～

通知表は、学習の状況、学級・生徒会活動、部活動、出席状況等、学校での生徒の様子をお知らせし、保護者と学校の連携を図ることにより、生徒の一層の成長を願って作成しています。伊賀市すべての中学校で統一した形の通知表を使用しているので、これまでのものと記載内容は変わりません。

学力については知識の量のみでとらえるのではなく、「基礎・基本を確実に身につけること」と「自ら学び自ら考える力」や「豊かな人間性」なども含め、どのように社会が変化しても必要なものとなる「生きる力」がはぐくまれているかどうかによってとらえることが求められています。

育成すべき資質・能力の三つの柱

～学校は、社会と切り離された存在ではなく、社会の中にあります～

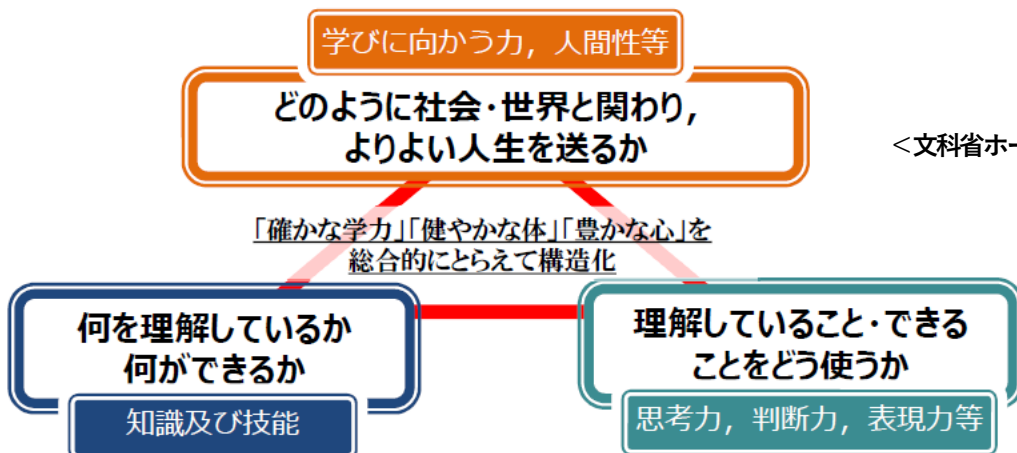
学習指導要領は、グローバル化や急速な情報化、技術革新など、社会の変化を見据えて、子どもたちがこれから生きていくために必要な資質や能力について見直しを行ってきています。

そのため、『資質・能力の三つの柱』に基づいた目標や内容の再整理を踏まえ、評価の観点について下記の3観点に整理されています。

育成すべき資質・能力の三つの柱



学習する子供の視点に立ち、育成を目指す資質・能力の要素を三つの柱で整理。



<文科省ホームページより>

かくきょうか ひょうか かんてん
各教科の評価の観点について

ちしき ぎのう
知識・技能

○各教科等における知識及び技能の習得状況について評価します。

○それらを既有的知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかを評価します。

しこう はんだん ひょうげん
思考・判断・表現

○各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決するなどのために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価します。

しゅたいてき かくしゅう
主体的に学習に
取り組む態度

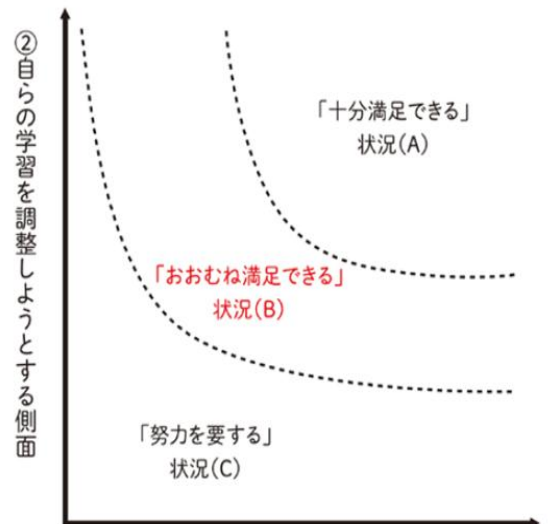
①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強く取り組む態度を評価します。
②自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しようとしているかどうかを含めて評価します。

「主体的に学習に取り組む態度」とは

- ①知識・技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、
②この粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面、という二つの側面から評価します。

※これら①②の姿は、実際の教科等の学びの中では、別々ではなく、相互に関わり合っています。

わかりやすくいうと・・・



①粘り強い取組を行おうとする側面

★学習のなかで、自分自身が「何がわかって、何がわかっていないか」を把握し、どのように学習をしていくか、粘り強く試行錯誤したり友達や先生に訊いたりして、わかっていっているかということです。

この力をつけるために、柘植中学校では、各教科等の授業を行う際に、

- ① 学習の見通しを持つ → ② まず自分で考える → ③ グループやペアで考える(学びを深める)
→ ④ 全体で確認する(自分で考えたことや、グループで考えたこと)
→ ⑤ ふりかえりをする(何がわかって何がわからなかったのか)」
という学習の流れを積極的に取り入れた授業を行っています。

～ 裏面につづく ～

つうちひょう 通知表について

<観点別評価>

3つの観点について、それぞれどれだけ達成できたかを、「A」「B」「C」の3段階で評価しています。

「A」・・・目標達成について、十分満足できると判断されるもの

「B」・・・目標達成について、おおむね満足できると判断されるもの

「C」・・・目標達成について、努力を要すると判断されるもの

<5段階評定>

各教科の「観点別評価」を総合した結果を、評定「1」「2」「3」「4」「5」で表したものです。したがって、それぞれの教科のねらい(目標)をどれだけ達成できたかを判断するものです。

「5」・・・十分満足できると判断されるもののうち、特に高い程度のも

「4」・・・十分満足できると判断されるもの

「3」・・・おおむね満足できると判断されるもの

「2」・・・努力を要すると判断されるもの

「1」・・・一層の努力を要すると判断されるもの

※技術・家庭科の評価については、技術分野と家庭分野を総合し、技術・家庭科として評価します。

(1)「道徳」について

授業の様子や、授業を通して変容したことなどを文章で学期ごとにお知らせします。

(2)「総合的な学習の時間」について

道徳と同様に、「学校行事」や「人権総合学習」の取組の様子と、学習を通して「どのような力がついた」のか、また「つけたいか」を学期ごとに文章でお知らせします。

(3)「行動の記録」について

十分満足できると判断されるもののみ項目に○をつけてお知らせします。

～通知表の様式と取り扱いについて～

昨年度までは、通知表として各学期に一人ひとりの「ファイル」を作成し、通知表をご確認いただいたのち、次の始業式の日に学校にもどしていただいていた。また、学年度末には、1年分の内容が入った通知表を作成し、「ファイル」にはさみ、お渡ししたものの各ご家庭で保管していただいていた。

本年度は、毎学期、あらたに通知表を作成し、連絡封筒に入れてお渡しします。配付された通知表については、ご確認のうえ、各ご家庭で保管してください。通知表は始業式に学校に戻していただく必要はありません。ただし、ご家庭で確認いただいたことを確認するため、通知表の入っていた**連絡封筒に確認印を押していただき、連絡封筒を始業式の日**に学校へお戻しく下さい。2学期も同様です。よろしくお願ひします。